

事例No.	3323
公表年度	R6
団体の属性	一般市
団体名	山口県周南市

事例区分	地域活性化	タグ	・関係人口 ・観光
------	-------	----	--------------

事例種類	中心市街地活性化
------	----------

事例内容・タイトル

駅前図書館を拠点としたまちづくり

出典

地方自治研究機構 先進事例調査研究（令和6年度）

駅前図書館を拠点としたまちづくり

取組のあらまし

取組団体 山口県周南市

取組内容 駅前図書館を拠点とした中心市街地活性化に向けた取組

予算等 153,408千円（指定管理料：令和4年度実績）

1 山口県周南市の概要

人口 13万6,179人 令和6年1月1日現在（住民基本台帳人口）

職員数 85人 令和6年4月1日現在（教育部門）

総面積 656.29km² 令和6年1月1日現在（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」）

図表 1 山口県周南市の位置図



出所：周南市ホームページ

2 取組の背景・目的

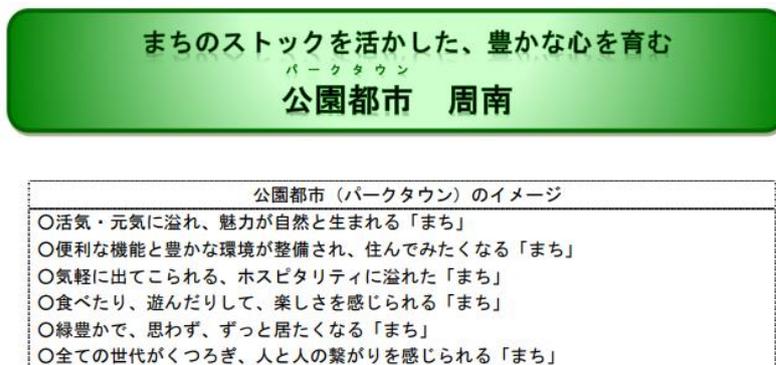
(1) 周南市内における中心市街地の空洞化

周南市は、JR 徳山駅を中心に商業地や業務地、住宅地が形成されてきた。市役所や金融機関、医療機関等の各種公共公益施設が集積している。こうした都市機能を背景に、周南市の中心市街地は山口県最大の商業地として大きく発展してきた。一方で、近年は商業施設の郊外移転や地域経済の低迷で中心市街地における店舗数が減少する等、中心市街地の空洞化が進み、賑わいと集客力の喪失という問題を抱えていた。

(2) 周南市におけるまちづくりの理念

こうした問題に直面するなかで、周南市は「第1期周南市中心市街地活性化基本計画」（平成25年3月認定。以下「第1期基本計画」という。）を策定した。第1期基本計画では、中心市街地におけるまちづくりの理念を「まちのストックを活かした、豊かな心を育む公園都市（パークタウン）周南」とした。中心市街地が、まるで“公園”のように、高齢者・子育て世代・若者など誰にとっても居心地が良く、人や自然、文化など多様な要素が共生・交流して、豊かな心が育まれる“みんなの公共空間”になることを目指した（図表2）。

図表 2 第1期基本計画におけるまちづくりの理念と公園都市（パークタウン）のイメージ



出所：周南市「周南市中心市街地活性化基本計画について」

(3) 交流施設の“核”となる駅前図書館

周南市立徳山駅前図書館は、第1期基本計画におけるプロジェクト事業の1つである賑わい交流施設整備事業の核となる施設として平成30年2月3日に開館した。周南市立徳山駅前図書館及び徳山駅前賑わい交流施設（以下、徳山駅前図書館）は、①「このまちへ来る人へのおもてなしの場」、②「このまちに住んでいる人たちの居場所」、③「人が集い楽しむこのまちの賑わいと交流の場」の3つのコンセプトを掲げている。徳山駅前図書館はブック&カフェや学習スペース等を民間が一体的に運営する「民間活力導入図書館」として、上記3つのコンセプトの実現に向けた重要な役割を担っている。

3 取組内容

(1) 徳山駅前図書館の概要

徳山駅前図書館は JR 徳山駅に直結した3階建ての図書館である。「未来の私に会う場所」をコンセプトに、365日年中無休で、朝9時30分から夜10時まで開館している。購入・収集する書籍は、旅行やスポーツ等の「生活を豊かにするジャンル」を主軸にしている。徳山駅前図書館は、コーヒーを飲みながら読書を楽しめるカフェスペース、待合所としても利用できる全長約120mのテラス席、イベントやサークル活動等様々な用途で使える交流室、地元特産品が並ぶ物販コーナー等、来館者の多種多様な目的に合わせた賑わいと寛ぎの空間を提供している（図表3）。令和5年度の年間来館者数は197万人と過去最高を記録し、高い集客力を誇る中心市街地活性化のための重要な拠点となっている。

図表 3 徳山駅前図書館の特徴

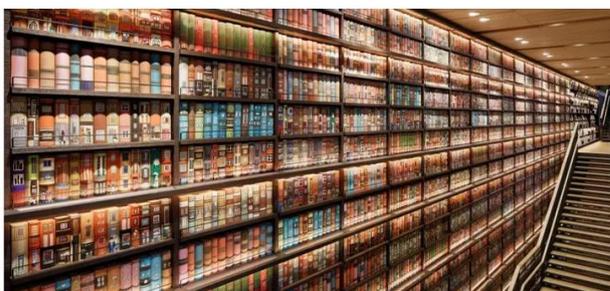
快適な空間を提供（1F ブック&カフェ）

賑わいと交流を生み出す自由な空間（3F 交流室）



全面ガラス張りの目を引くデザイン（建物外観）

大迫力の本棚アート（エントランス付近）



出所：徳山駅前図書館ホームページ

(2) 中心市街地活性化に向けた創意工夫の取組

ア 市民に対する高い付加価値を持つ公共サービスの実現

徳山駅前図書館は、蔦屋書店で知られるカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（以下「CCC」という。）が指定管理者として運営している。CCC が有するコンセプト企画力やノウハウを活用した提案性の高い雑誌の販売スペースとゆったりとしたカフェスペースの共存した空間デザイン、年中無休の図書館サービスの提供を通じて、市民に対して高い付加価値を持つ新たな公共サービスとして、賑わいや交流の創出を実現している。

イ 多様な主体のアイデア共有の場としての「街と駅との連携会議」

周南市では、中心市街地活性化協議会の部会として、「街と駅との連携会議」開催している。同会議は、情報共有や中心市街地活性化策等について率直な意見やアイデアを出し合う場である。徳山駅前図書館がオープンする1年前から月2回のペースで開催している。メンバーは、周南市、CCCをはじめ、商工会議所、まちづくり会社等のまちづくり支援団体や、周南公立大学、イベント関係者等の事業者から構成されている。

同会議から「徳山あちこちマルシェ」や「徳山あちこちクリーンプロジェクト」等の市民イベント（図表4参照）が生まれ、街の賑わい創出に貢献している。

図表 4 徳山あちこちマルシェ/徳山あちこちクリーンプロジェクトの概要

徳山あちこちマルシェ



市民らが徳山駅前図書館の周辺広場のあちこちに出店し、雑貨や食品等を販売。県内外からファンが多く訪れていた。令和3年度に終了した取組だが、現在は「おさんぼまーけっと」、「周南地域マーケット」、「周南蚕の市」等の新たな取組が定期的で開催されている。

徳山あちこちクリーンプロジェクト



まちなかを清掃しながら通勤・通学する方に挨拶をすることで、まちをきれいにつつ、まちなかを利用する方への美化意識の啓発を行う活動。毎月1回・第3水曜日に開催し、市民や企業が参加。始まった当初は、20人程度だったが、継続するなかで、賛同した参加者が増加し多いときには100人を超える。清掃後にはコーヒーを手に参加者同士で談話する姿が見られるという。

出所：周南市提供資料より当機構作成

4 成果・課題

(1) 取組の成果

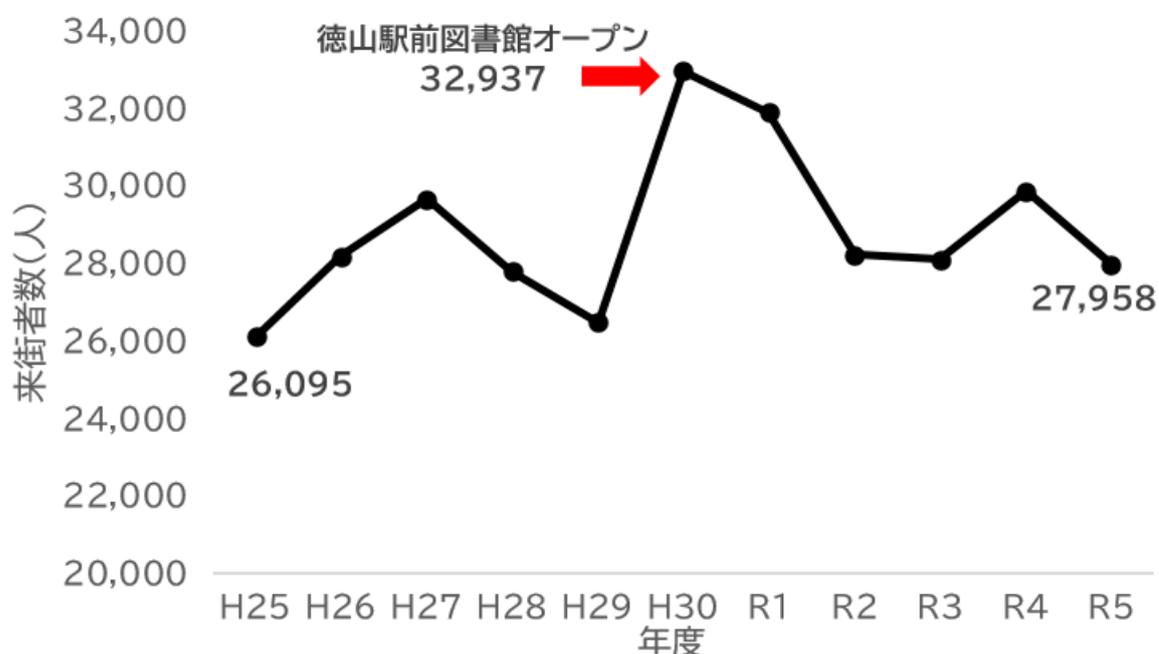
徳山駅前図書館を拠点とした中心市街地活性化の取組によって、中心市街地における来街者数は増加傾向にある。「第2期周南市中心市街地活性化基本計画」（令和2年3月認定）によると、周南市の中心市街地の1日あたりの歩行者等通行量（平日10時～19時）は、平成25年には26,095人であったが、徳山駅前図書館がオープンした平成30年には、32,937人に増加した。その後、コロナ禍の影響を受けて減少したが、直近の令和5年度も27,958人を記録しており、徳山駅前図書館オープン前よりも高い水準にある（図表5）。

また、徳山駅前図書館の利用者や中心市街地商店主からの評価も高い。施設開館後に実施した中心市街地商店主を対象としたアンケート結果では、人通りについては回答者の約50%が「増えた」と回答し、まちの雰囲気については20%が「若い人が増えた」、18%が「見たこ

とない人が増えた」等と回答している。さらに、指定管理者が令和5年度に実施した利用者アンケート調査によると、回答者の84.5%が当施設に「大いに満足」「満足」と回答しており、満足度の高さが伺える。また、52.7%が「当施設ができてまちに変化があった」と回答しており、そのうち90.2%が「駅前に賑わいができた」、36.8%が「家族や知人と集まる場所ができた」と回答している。

徳山駅前図書館の求心力と、当施設が起爆剤となって生まれたさまざまな市民参画の取組は、中心市街地活性化へ貢献していることが示唆される。

図表 5 周南市中心市街地における歩行者等通行量の推移（平成25年～令和5年）



出所：周南市提供資料より当機構作成

(2) 今後の課題

徳山駅前図書館は、年間来館者数が190万を超えるほどの求心力のある施設として賑わいを見せている。また、当施設が起爆剤となって、徳山駅前周辺では「おさんぽまーけっと」に代表されるような市民が参画するさまざまな取組も生まれ始めている。一方で、こうした賑わいを中心市街地全体へ波及していくという点では課題がある。周南市の担当課は、「駅前や商店街、都市公園等をイベントで結び、中心市街地の回遊性向上に取り組みたい」としている。

関連・参考資料

周南市「周南市中心市街地活性化基本計画について」

<http://www.rilg.or.jp/htdocs/>

周南市立徳山駅前図書館ホームページ

<https://shunan.ekimae-library.jp/>